

PUBLISHER'S NOTE

今月号では、ケータイを特集した。

ところで、最近はこの「ケータイ」という呼び名が、「携帯電話」に代わって定着し始めている。20 数年前、パソコンが出始めの頃に似たような状況があったことを思い出す。「小型コンピュータ」「マイコン」などを經由して、現在の「パソコン」に落ち着いたと記憶している。「携帯電話」が爆発的なヒットとなり「ケータイ」と呼ばれるようになった背景にも、それなりの必然性と運命的な血筋があると思う。

1つはコンピュータとしての血筋である。ケータイは、大型計算機>ワークステーション>パソコンという「ダウンサイジング」系譜の「最新種」として位置づけることができる。コンピュータの進化の歴史はダウンサイジングの歴史でもあり、その勝者が市場の勝者となってきたのだ。

もう1つの血筋がある。最近では当たり前になったためか、ことさら言われることはないが、「マルチメディア」の申し子としての側面である。元々の音声に加え、電子メール、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラまで装備するようになったケータイは、かつてパソコンもCD-ROMも実現することができなかった「マルチメディア」性をあっと言う間に実現してしまった。それも、閲覧する機能だけでなく、発信者としての役割をサポートする機能も持ち合わせている。人が行くところどこでも「携帯」できる特性は、マルチメディアプロブとしての役割を顕在化させ、人と場所と出来事を密に結びつけている。

そしてもう1つが、通信機器としての血筋である。ケータイが生まれながらに持っている電話としての「双方向性」のことである。上り下りの区別がなく、エンド to エンドで通信できる電話は、宿命的にそれを義務付けられたサービスである。その部分に、昨今のインターネットがP2PやSIPという技術で「ダウンコスティング」を挑んでいる。IPネットワークが、双方向通信の遺伝子を持つ電話サービスを変革してしまうかは、そのコストが鍵を握っているだろう。また、リアルタイムメディアである電話がどう進化するかは、スケールは違うものの、放送モデルでも繰り返される可能性がある。

私自身はパソコンとインターネットの進化の潮流の中に居たが、そこで研究・開発されてきた、各種デバイス、CG、音声認識、ストリーム映像などのすべてが、この「ケータイ」をテストベッドにして開花しているように思える。

最後に面白いエピソードがある。パソコン業界に従事してきた人にケータイの可能性を聞いてみると、決まって「あんな小さい画面で仕事ができるわけがない」という旨の返事が返ってくる。パソコンが登場してきたときのメインフレームの発言を思い出す。

井芹昌信 [iseri@impress.co.jp]



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp